

05 元魔法少女完全わからせコース

「あ、いらつしやいませ。はい、プリムちゃんですね。ご予約通り、準備OKですよ」

「ふふふ、わからせスペシャルコース、洗脳度20%、催眠オプシヨンは『常識改変』、『条件を満たすと洗脳度上昇』の2つですね」

「常識改変で『魔法少女として悪の組織の戦闘員と戦うためには精液を搾り取らないといけない』と思込ませてあります」

「また、洗脳度上昇の条件は体に精液が付着すること。こちらもちゃんと自覚しています」

「ええ、後はいつもの通り、乱暴こと以外のプレイはどんなことでも、当店自慢の元魔法少女風俗嬢、プリム・ポーションちゃんをお楽しみください」

「備え付けのコンドームは自由にごつぞ。それではお部屋でお待ちください」

「はあ、い、プリムでええす。いつも、ありがとございます」

「今日は洗脳を解いて、指名してくれるなんて——」

「けど、油断したわね！　どんなに辱められて、感じオセられても、」

「わたしは、心まで折れたわけではないじゃないッー」

「セイントコールっー」

「聖衣転身、聖恋天使プリム・ポーション、復活よ!!」

「今まで受けた屈辱、百万倍にして返してあげるわよー」

「ヤッそく、あんたのオチンポミルク、たっぷり搾り取ってあげるから」

「この雑魚戦闘員っ、覚悟しなさい」

「あのエッチな洗脳をしちゃう精液もこの魔法のコンドームで防げば問題なし！　え、一箱しか無い……だ、大丈夫よね……だいたいようぶだいたいようぶ」

「つく、もうそんなおちんちん、ギンギンに勃起オせて……せ、せーしの匂いぶんぶん、ああ……あ、ダメダメ、す、すぐに魔法のコンドームで封じなさい」

「んしょ、んしょ、ザ」戦闘員のくせに、こんな凶悪ちゃんぽ……でも、これで……ふふふ、抵抗するまでもなく「コンドームつけられちゃってなさいない。これで、せーしいっぱい出しても洗脳できなんだからー」

「覚悟しなさい、雑魚戦闘員」

「まずはプリムのパイズリで、カラッカラになるまで精液、搾ってあげるッ」

「このむっちり張ったおっぱいが弱点だつてのはもうわかってるんだから、ちゅぱ、れろ、れろ……しっかり唾液でぬらした竿先を挟みこんで、むにむにでぶにぶにのおっぱいサンド、効いてるわね！このまま……じ……じ……、たぶたぶさせてー♡」

「すぐに射精させて、降参させてあげるから。んっ、んんっ」

「聖恋天使の衣装で包まれたおっぱいを交互にすりすり、って擦りつけて、オチンポの根元から、先っぽまでシコシコしていくから」

「おちんちゃん、わたしのおっぱいプレスで、すっごく切なさうに、震えてる」

「薄いゴムだから、生のバスの柔らかさもめくもりも、伝わって、感じちゃうでじょっ♡♡」

「勃起したおちんちゃん、ビクビクして、もう出したいって、言ってるよ」

「ねとねとの濃いせーし、すぐそこまで上がってきてるんだよね」

「わたしの必殺技しっかり味わいなさいー」

「このまま出したら、気持ちいいよお、んふふっ♡♡」

「プリム・ポーシヨンのドスケバパイズリで天国にいつちゃえッ♡♡」

「ほらほらほら、ほらあっ♡♡このまま出せ、出せ出せっ、出しちゃえッ♡♡」

「気持ちよく、ぶりっぶりの精液っ♡吐きだしちゃえ——ッ♡♡♡」

「んふあッ、いっぱい出たあッ♡」

「コンドームに、たっぶりお射精しちゃったね」

「わたしが本気を出せば戦闘員なんて、なんて……ふあ、コンドームぱんぱん……っく、あいかわらず精液の量だけは怪人級なんだから、ほ、ほめてないわよ!？」

「こんな、せーしてパンパンの危険物、ほっておいて奪われたら危険ね……ガーターにしっかりと結びつけて管理しないと。ん、ほかほかゴム越しに……♡♡」

「なんか、おかしい気もするけど、魔法少女なら精液搾り取って悪を倒さないと……いけないのよね？ まあいいわ……撃墜マークよ、撃墜マーク！ どんどん搾り取って並べてあげるんだからっー」

「その全然萎えてない勃起ちゃんぽーっく、精液の匂いすい……だめ、早く魔法のコンドームで早く封じないとっ、匂いだけで洗脳されちゃいそっ♡♡……ふっ、ふあっ、2枚目もきちんと着けてあげたわ」

「これは本格的にセックスして、精液、しっかり搾らないとダメみたい」

「ヤ、仰向けになっっ」

「聖恋天使の力、見せてあげるから」

「え、ショーツがぐっしより濡れぐらい愛液が垂れてるって……う、ん、これはおちんちゃんから精液搾り取るための準備よっ、か、覚悟しなさいっー!」

「ん、はひいっ……」の格好だと「一気に奥までえっ♡んあっ、中で暴れちゃ!?! あ、あ♡ああ♡」

「はひ、はひいい、なかなか、んあっ♡やるわね♡戦闘員のくせにっ、んおっ♡おちんぽ♡」
「じりりちゅいっ♡」

「だめ、わたし、魔法少女♡だから♡あっ♡せーし搾り取らない♡腰を……ぐちゅぐちゅ
ゆっ♡下っ♡にっ♡ひあん♡」

「じっとなったら、抱きつき攻撃よ……ほうほう、ピンって貼ったわたしの乳首でっりっり気持ち
すくへっ♡あげる♡」

「おっぱい押し付けて、おちんちんの気持ちいい♡おまんこで締め付けて♡」

「ほう、出しなさいっ♡私のおまんこで、どろどろの精子っ、びゅるびゅるって出しまくっ
ないっ♡はあ、はあっ……んあっ、んひいっ♡……」

「はひ、はひい、あひい、いっ♡中の気持ちいい♡じっ♡じっ♡こりこり擦れっえ……」

「い、イキそう……」

「あ、今は違うから、これくらいで、わたしのGスポットっ、感じたりなんねえ、んひ、んひ、
う、ひぎっ♡っ、しないからっ♡」

「あひ、あひあッ、こんなんじゃ、わたしは負けたりしないからっ♡イクのは、あんたのよわ
わな、ザッ♡チンポよっ♡」

「ビクンビクンしてっ、熱々のせーし、上がってきてるのよね」

「ほうほう、ほうあッ、イケっ、イケイケイケッ、射精♡いっちゃえええッ♡あっ、ああっ、ん
あああっ♡んひあッ、んひぐっ♡」

「聖恋天使は負けないんだから♡んおっ♡負け、負けない♡だから、早くひやせいしてえ
っ♡ひやえええ♡んひあッ、んっあああ——っ♡♡」

「はあはあ、はあっ……わたし、いつてないから」

「おまんこがビクビク痙攣してるの、あんたのザーメンを絞るための、聖恋天使の必殺技だか
らあ……あえ、あええ……」

「ん……はあっ、はあ……ひうっ♡ぬ、抜けた……うああ、さっきよりコンドーム大きい、た
いだ、これ全部精子なのよね、っ♡……」

「はっ、だめだめ、これも回収してっ♡……」

「んしよっ、ゴムを外して、口を縛って。こうしてガーターに付けて。新しいの着けなきゃ……
まだ、残りはいっぱいあるし大丈夫だよね」

「それにしても、すっ♡いっ♡の句っ♡」

「すっ♡はっ♡の香りだけで孕んじやいそう……え、あ……わたし、興奮なんてしてないから」
「な、何よ、おちんちん突きだして。お口でしてっ……ん、っ、突きつけるなあっ♡」

「い、いいわよ……精液搾り取れるならどこでも……大丈夫、魔法のコンドームしてるから……せ、せーし臭いけどこれぐらいで負けないんだからっ!」

「こんな変態戦闘員のがちがちんぽに正義の魔法少女は屈しないんだから……大丈夫、大丈夫」

「はあ、はあ……匂いすついい……い、行くわよ、あむっツ、んちゅ、ちゅばちゅば、んちゅばッ」
「ほらあ、ぜんじえんっ、フエラちつれえ、へーきれしよっ♡」

「んむう、はむうつ、こんな精液の匂いぐらいで洗脳されなほしい♡んちゅぶう、ちゅぶぶ、ぶはあっ……♡」

「へ、へたくそって……なによ、おちんちんぎんぎんにして言っどじやないでじよ」

「つく、でも魔法少女として戦闘員相手でも手を抜くなんてありえないし、全力でフエラして抜いてあげるからっ」

「あむっ、ん、ん！ ツフー、ツフー……ん、おつ、“ん、”ん——ぶぐうつ……れろ、ん、ん♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「ングツ……ふはぁ♡、どう？ って聞くまでもないわね……こんないっぱい出しちゃって、コンドームで喉漬れるかと思っただわよ……ほんと、こんな、こんないっぱい全部飲んじゃったお腹の中でも孕んじゃうくらい、ふぁ♡」

「ちょっとだけなら……だ、ダメよ、なに考えてるのわたし♡ はあ、はあっ♡ こ、これも結んで隔離しておかなきゃ」

「二の、二のっ！ まだなの!? もう10個も「ソンドーム溜まつてるのにつ!」

「くっ、これくらい……聖恋天使プリムを舐めないで、ひゃっ♡ほんとになるな♡あと10回でも20回でもぐちゃぐちゃに腰振ってあんたの精液搾り取ってあげるんだからっ♡」

「んふっ、射精しそうなね♡ 子宮押し付けておちんぽの先にキスしてあげるから♡ 出しなさい♡ ほら射精しなさいよ♡」

「おまんこ思い切り締めて、精液搾ってあげるっ、ん、んんんっ♡」

「出せ♡ 出しちゃえッ、精子、吐き出せえッ♡ んあああッ♡」

「射精の勢い凄くてっ、ゴム先が当たって、子宮にまで響くぅ♡」

「んひいつ♡
わ、わたしもイっちゃう♡
ダメなのに、このチンポ気持ちいいの♡♡♡」

「♡♡ミューン♡♡」

「はあはあ、ちよつとだけ、き、休憩、させてえ……♡ あふ、はふう……今のは相打ちだから……プリムは負けてないよお……」

「あ♡ おちんちん抜けちゃった……♡ ホカホカの精液の詰まったコンドームをわたしのガーターに結ばないと♡ あんっ、子種でたがたにゴム袋、まだ温もりがあつて、出したてって感じ♡」

「はあはあ、また復活したおちんちんにゴム付けてっ、と」

「きゃっ、え、え♡ せ、戦闘員に押し倒されるなんて、不覚っ……っく、こんな抵抗できない態勢でしちゃうの♡ 魔法少女なのに押さえつけられて、から密着して、ま、負けないんだから♡ あ、あ、ああっ♡ 入ってきたあ♡ んあっこんな近くでおちんちん入れられてアへってる顔♡ 見られて♡ 腰つかいすっ♡」

「かきまわしやれるのダメ♡」

「もう、頭真っ白で、意識トんじやいそう……♡」

「あ、あえ、あええッ、そんならあ、勃起チンポっ、んひ、んひべっ、突きあげて、来ないでっ♡」

「先っぽが、あべ、んべっ、子宮にひ、響くッッッ♡」

「赤ちゃんのお部屋のドアっ、ガンガンノックされてっ♡」

「ひべっ♡♡ らめえ、らめえ、らめえ、らめえ、言われるの♡」

「そんなに激しいのムリい、ムリっっっ、言われるの♡」

「あひっ♡♡ ひっ♡……ッッ♡♡ッッ♡」

「んちゅ♡ 唇まで奪うなんて♡ なんて卑怯なの♡ んっ♡ ちゅっ♡……ふはあっ♡ とけちゃっ♡ 全部とけちゃっ♡♡」

「来るッッ、あひべっ、んひべっッ、負けちゃダメなの♡」

「あーっ♡ またイグ♡ イグッッ♡ んっあーッ♡ イグの止まらない♡」

「わ、わたしのおまんこ、まだ、負けてなひからあ♡ んい、んいッッ♡」

「あえ、あええッ♡ あひっ♡♡ ひっ♡……まだ、い、イってないの」

「雑魚戦闘員のクセに、タフすぎなのよ」

「射精の量、すっすぎッ、ゴムう、バチっって子宮口に直撃してっ、い、イグう、んっあーッ♡♡」

「はひ、はひい……ま、まだ射精できちゃっの……もうコンドームも二十個使って、腰周り、精液袋でいっぱいなの♡」

「っ、コンドーム着けなせや♡」

「え、箱の中から……」それが最後の「コンドーム」

「っ、ゴム使い切っちゃたら……生ちゃんぽ……っく……わたし、何があっても最後まで戦っつもりよ……けど……ナマのせーし、浴びちゃったら……」

「そんな……わたし、聖恋天使なのに悪に屈しちゃっの……あ、あ、でもこんなにおちんちん熱くて、ああ、手が止まらない」

「おちんちん手コキで、最後のコンドームなのに……はあ、はあっ♡」

「ほら、シコシコして、中に出してえ、最後のゴムだけど、射精して使っちゃうなら、仕方ないよね」

「たまたまをもみみしながらあ、勃起をシコシコっ♡」

「雁首が感じやすいんだよね」

「指先をねちっこく絡めて、エラの裏から先っぽをシ」シ」っ♡」

「薄いゴムだから、手で直接触れてるみたいでしょ？」

「ほら、手まんて感じてシ」で、出しちゃって♡」

「ぶるるるる、びるるるるって、エッチなせーし、最後の「ソンドームに射精♡」

「あ、あ、いっぱい出てる……せーしびゅつびゅつて、」

「わたしの中で、こんな熱々の生で出されたら一発で墮ちちゃうよぉ」

「ふあっ、ん、出したてのせーしの匂い♡ わたしの身体が覚えちゃってる……はあはあ、深呼吸したただけであそこがぐしょ濡れで」

「正義の味方が負けちゃいけないのに……で、でも仕方ないよね」

「魔法のコンドームもうないし、生でしちゃうの仕方ないよね♡」

「うっ、そうよおちんちん見て欲情しちゃうなんて魔法少女失格よ。変態、わたし変態になっちゃっの♡」

「仕方ないじゃない、いっぱい、いっぱいおちんちんでイカされて女の子の穴もお口も、お、お尻の穴も、あなたのおちんちんの味覚えさせられちゃったんだから」

「あ、あ♡ ちんぽ♡ せーしで濡れ濡れの勃起チンポ♡ ん♡ せーし肌に♡ あ、ああ♡ 入ってきたあ♡ せーしに触っちゃった♡ んひい♡ 頭の中書き換わっちゃう♡」

「おちんちんしゅじいの♡　んああ♡　しゅじい♡　しゅじい♡　わたしおちんぽだしゅきな変態に書き換えられてくっ♡　んっああーッ♡♡♡」

「はひ、はひい、こんなの、ず、ずるいいい。ゴム付けてるより、何倍も気持ちいいし……ま、負けちゃうよね、こんなの……せ、聖悪天使でも、耐えられないの、当然だよ、あ、あぁッ♡」

「中、ぐちゅぐちゅされてえ、わたし、らめ、らめえッ♡」

「はあはあ、おちんちん、奥でビクビクして、だ、出すのねッ」

「は、初のおまんこ、生出し、あ、あああッ♡」

「子宮にまで、どつぷど洗脳精子流し込まれて完全に負けちゃうのね♡」

「イきたい♡ 完全に戻れなくなっちゃって♡ 戦闘員チンポに敗北イキ♡ 魔法少女として終
ちやうの♡」

「え……わたしの魔法のステッキ？」

「キラキラ輝いて、あ、あ♡……わたしが望む形に、魔法のステッキだから、今まで一緒に戦ってきた魔法のステッキなのに……はあはあ、ステッキ、おちんちんの形に変わっちゃったあ♡」
「見覚えあるの、と、当然よ……あんたの、それだし……あ、やあ……お尻♡ 魔法少女の、聖恋天使のステッキでお尻の穴♡」

「お、おお、おおほおお、ずぶずぶつれえ、い、一気に潜ってきてえ♡」

「おまんこでイキまぐってるのにお尻まで責められたらあ、わ、わたし、本当にダメになるっ、お、堕ちちゃっ♡♡」

「あぐ、あぐぐう、あぐうんッ♡♡」

「前も後ろも、一緒にぐちゅ混ぜえ、し、しないれえッ♡♡」

「んお、んおほお、おふおお、お尻でイキながらあ、おまんこでもイけうッ♡♡」

「二穴で、んっおおおッ♡♡ んおっほおおーッ♡♡」

「わたし、おちんちん気持ちよくする穴になってる♡ お口も、お尻も、おまんこも♡ おちんちん専用♡♡」

「あひい♡♡ んひい♡♡……射精きたあ♡♡ す、す♡♡♡♡♡♡♡♡」

「精液だしゃれて♡ わたし、変わっちゃう、んお♡ 洗脳♡ 洗脳♡ だいしゅき♡ もっと、完全に頭の奥までいっぱい犯して♡ んひい♡ 真っ白になって気持ちいいことだけ♡ おちんちんとせーしのことだけ考える変態じゃん♡♡」

「あひい♡♡ んああああ♡♡ イキゅうううう♡♡♡♡♡♡……」

「あひあ、あはああ……んちゅ、戦闘員さんのおちんちん様にプリム、完全敗北。聖恋天使なんて称号、返しますっ♡」

「これから、〃奉仕隷嬢プリム・ポジションとして、組織と戦闘員さまのために、尽くしますっ♡♡」

「あ、スマホ〃つちに向けて、記念撮影♡♡」

「いっぱい、いっぱい、ザーメン出されて敗北洗脳イキさせられまくった元魔法少女でーす♡♡」

「変態のプリムの大好きな精子入りコンドームの腰蓑♡♡」

「お腹も中出してパンパンで、精液奴隷にピッタリの姿にしてみろっ♡♡ だって私も幸せでーす♡♡」

「えへ、ピース、ピース♡♡」

「次もプリムの〃ご利用よろしくおねがいしますっ♡♡ っひ♡♡」